ピッチャーのユニホームが白く光ってまぶしい。わたしは、ちらっと空をあおいだ。広々とした青い空だ

ピッチャー、第三球のモーション。

わたしは、青空のようにすんだ清らかな気持ちで、じっと球を見つめた。

ピッチャーのユニホームは、太陽にあたって、光っているのかな。この光は、希望の光だな。ピッチャーの態度が堂々としていて、審判の心もきれいで、さっぱりしているから、そんな情景に見えたのかな。『空をあおいだ』の「あおぐ」というのは、上の方を見るという意味だから、空を見たんだな。どうして、「あおいだ」なんだろう。わたしだったら、「見た」とか「のぞいた」を使うな。・・・・・。「ちらっと」だから、一しゅんの間、見たけれどすぐにピッチャーの投げるボールを判定するためにすぐに正面を見たと思う。不正をしないと心が決まって晴れ晴れしたから、空を見ていい気持ちになったんだろうな。もう。二度とおまけなんて考えないと思う。とってもいい天気だったんだろうな。ふっと空を見たら、とっても広々していて気持ちよかったんだと思う。この空は、自分の心の中のように広々とした青空だと思っているのだろうな。青い空に祈るような気持ちだったのかな。「これから、がんばります。」という気持ちが、出ているな。空を見ることで、気分転かんになり新しく始まるように感じる。なやみ（まよい）が消えたのと同時に心が広々としたんだな。

新しい自分への挑戦状だと思って、三球目のボールを待っているな。今度は、深く考えずに出来るのか、ボールか。ストライクか。この時も、観客席・選手たちも一様にかたずをのんでみていただろうな。きんちょうの場面が続いているけれど、この審判にとって、新しい一球目という感じがする。（考え読みだから、ピッチャー、バッター、観客など、いろいろな視点で書いてくれたけれど、ここまで考え読みを進めてきたのだから、もう、審判の心の動きにしょうてんを当てて考え読みをするのが、良いように思います。もちろん、審判にかかわっての別の視点で、考え読みをするのは、大切だしよいことです。）

正々堂々と青く澄んだ空のような気持ちで自分の思った通り正しい判定をするんだ。もう、あやまちなんて起こしはしない。さあ、三球目に集中だ。この経験のおかげで、この審判は、自信がついただろうな。心が決まると気持ちがいいんだろうな。もし、次にきわどい球が来ても、じぶんを信じてボールかストライクかきめるだろう。もう気持ちにまよいはなく、きちっとした判定を下すというような気持ちなんだなぁ。とても気持ちよさそうだと思った。「じっと球を見つめた」のところで、題名と意味がつながったなあと思った。「ボールを見つめて」は、こういうことだったんだ。